

## 中学3年生

尾方英美

### (1) 目的

メインテーマを「国際理解と平和」とし、戦争など、国際理解・平和に関する事柄を学び、国を越えての相互理解や平和の尊さを考えさせる。また、現在の世界がどのようにして形成され、どのような問題を抱えているか知り、築き上げた平和な世界をどうしたら維持できるのか、相互に意見を聞き合うことで深めさせる。そして、国際理解と平和のため、将来を担う存在としての思考・行動の指針を見つけさせる。中学での学習の集大成として、個人の疑問や仮説、問題意識を持った上で研究を行い、グループ活動を通して自分と異なる見方を知り、多様な考えに対する相互理解を深める。

### (2) 実施方法

戦争という過去の事実を学び、平和な世界のために、現在何ができるか、また、平和な世界をどのように未来へと繋げていくのかを考える。また、ダイヤモンドランキングで抱いた国際理解・平和についての興味・関心を、調べ学習や戦争証言者・被爆証言者の話によって深める。そこから、自ら考えた仮説を立て、それを検証し、グループで考察する学習スタイルをもって進めていく。

6月以降、研究グループをつくり、11月に行うフィールドワークに向け、グループのテーマを定め、調べ学習を行う。その際、それぞれが調べてきた内容を比較・検証し、同じ研究テーマに対する多様な見方や考え方を身につける。グループで取り組むことにより、新たな着想を得たり、問題を発展させたりさせ、その結果から平和と国際理解の問題を考察し、自分の考えを深めていく。

昨年度までと同様に、研究旅行でのフィールドワークの実施を通し、アポイントの取り方や依頼状・お礼状の書き方、質問事項の考え方など、課題を探究するために必要な技能を身に付ける。最後に、フィールドワークの内容を研究集録やポスターの形でまとめ発表、さらにグループ研究から疑問に思ったこと、さらに深めたいことを個人で研究し、自分たちで設定したテーマへの理解を深めていく。

### (3) 内容

(前期)

月	日	曜	授業内容 (予定)	使用教室
4	10	水	オリエンテーション	図書館
	12	金	ダイヤモンドランキング	第一総合
	15	月	事前学習 ユダヤ人迫害について (「新映像の世紀」視聴)	第一総合
	22	月	事前学習 杉原千畝について	第一総合
5	9	木	ピース愛知訪問	
	13	月	事前学習 世界遺産について	図書館
	27	月	事前学習 広島	各教室、図書館、PC教室
6	17	月	研究グループ決定 → テーマ設定	各教室、図書館、PC教室
7	4	木	グループ研究	各教室、図書館、PC教室
	8	月	グループ研究	各教室、図書館、PC教室
9	19	木	フィールドワーク (FW) 候補地の検討	各教室、図書館、PC教室

(後期)

10	10	木	FW候補地の検討、アポ取り準備・開始	各教室、図書館、PC教室
	21	月	アポ取り開始、依頼状の作成、質問事項の確認、千羽鶴作成	各教室、図書館、PC教室
	28	月	研究旅行事前学習発表会準備	各教室、図書館、PC教室
	31	木	研究旅行事前学習発表会	第一総合
11月6～8日		研究旅行（フィールドワークの実施）		
11	11	月	お礼状送付、検証作業とグループ考察	各教室、図書館、PC教室
	14	木	集録執筆開始	各教室、図書館、PC教室
12	2	月	集録執筆	各教室、図書館、PC教室
1	12	木	集録原稿下書き完成、個人研究のテーマ設定	各教室、図書館、PC教室
	9	木	グループ研究発表準備	各教室、図書館、PC教室
2	30	木	グループ研究発表会、集録原稿完成	各教室、図書館、PC教室
	3	月	個人研究	各教室、図書館、PC教室
3	10	月	個人研究	各教室、図書館、PC教室
	2	月	個人研究発表会	交流ホール

#### (4) 検証評価

前年度は「生命と環境」のテーマで、命の大切さについて学び、林間学校への取り組みなどを通して、学習を進めるための自主性や周りとの協調性を育ててきた。本年度は、命の大切さへと繋がる平和の大切さを考えてさせていった。その際、国際的な視点を持ち、人と人との関わりという視点も持つことを意識させた。個人の研究に関しては、2年間行ってきた個人研究のノウハウを活かしていくことができていた。中学3年生では、グループ研究を行ったため、同じテーマで学習を進めていく中で、物事を一方方向のみから捉えるのではなく、多様な見方があり、自分の考えを正確に相手に伝えることがいかに困難なことなのかを実感できていた。

特に研究旅行に向けての準備では、各々の興味・関心・疑問点を共有し、どのような仮説をたてることができるのか、要点となる疑問は何なのかをグループで話し合い考えることができたことで、相手の意見を受け取り、自分の意見と摺り合わせるということができていた。自分にはない発想やものの見方を知り、自分の考えとの共通点を探ることで、自分の研究の中に他の人のい

い意見を取り入れることの大切さに気付くことができたのではないと思われる。

各生徒に対する評価としては、①個人のテーマ設定および調べ学習の内容、②フィールドワークの取り組みと検証作業の有無、③研究集録執筆・ポスター作成および発表について評価を行う。①テーマ設定および調べ学習の内容については、「国際理解と平和」というテーマを踏まえて、自ら問題意識をもち、テーマを設定し、また、そのテーマに沿った調べ学習が行うことができたかを判断する。②フィールドワークの取り組みについては、テーマに沿ったフィールドワーク先を探し、訪問先について調べ、アポイントや依頼状・お礼状、質問の作成やインタビューなど、一連の取り組みをグループで力を合わせて行うことができたかを判断する。③研究集録執筆・ポスター作成および発表については、調べ学習やフィールドワークを通して学んだ内容を適切にまとめ、発表できたかを判断する。

また、年度末にアンケートを実施し、1年間の学習を通じ、国際理解と平和に対する興味関心が高まったか、課題を設定して探究する方法が身に付いたか、また、仲間との活動や発表を通じて国際理解と平和に対する多様な見方・考え方を学ぶことができたか、などを調べる。

(文責 尾方英美)